

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【作業学習（自主生産作業）】

1. 対象 特別支援学校 高等部レザークラフト班3年生

自分で考えて行動できる生徒や一斉指示を聞いて行動できる生徒、周囲の動きを見たり他者からの働き掛けを受けたりして行動する生徒など実態の幅が広い。レザークラフト班は、3年生の生徒のみで構成されており、どの生徒も4月から初めてレザークラフトの作業に取り組んでいる。これまでの経験から、生徒たちは、「販売会」や「地域のお客様に買ってもらう」等の作業の目的について理解しており、作業学習に対して意欲的に取り組むことができている。1学期は、レザークラフトの作業について知るために動画や本を用いて作業のポイントについて調べたり、実際に作業を体験し個々の生徒に合った作業工程を練習したりしてきた。そのため、自分が担当する作業工程の適切な工具の使い方や作業の進め方等が分かってきている。

2. 単元名 「第1回販売会に向けて、お客様が満足する製品を作って販売しよう」（全32時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・担当する作業工程や良否の基準を理解して作業に取り組むことができる。 ・販売会の準備や接客で、自分の役割が分かり、販売活動に取り組むことができる。
思考力、判断力、表現力等	・「お客様が満足する製品」とは何かを考えたり、市場調査の結果を基に製品の数や色を決めたりすることができる。 ・自分の作業の進め方を確認したり、良否を判断したりしながら規格どおりの製品を作ることができる。 ・地域のお客様への販売方法や接客の仕方を考えながら、販売会の準備や接客をすることができる。
学びに向かう力、人間性等	・「お客様が満足する製品を作ろう。」と自分から準備片付けや作業に取り組むことができる。 ・自分の役割を果たして、友達と協力して作業や販売活動に取り組むことができる。 ・友達に依頼をしたり、作業に取り組む中で気付いたことや考えたことを共有したりすることができる。

4. 授業展開【 本時 ・ 単元 】

解決したい課題や問い

- ・お客様が満足する製品を作るためには、どうしたら良いだろうか。（全体・仕上げグループ）
- ・きれいなストラップ・コースターを作りたい。（ストラップ・コースターグループ）

考えるための材料

目標決め・計画	製品作り
・地域に向けた市場調査の結果 ・教師が作りたいいくつかの見本（例：色むらがある製品と色むらがない製品等）	・製品の規格や良否の基準となる見本や写真 ・適切な作業のやり方やポイントについて記された掲示物や動画
想定される活動	想定される活動
・生産する製品の種類や数、デザイン等を考える。 ・班の目標（お客様が満足する製品）について、どのような製品を作れば良いか考える。また、そのための製品作りのポイントについて気付く。	・見本や写真と自分が作った製品を見比べて、規格通りの作り方（縫い方、塗り方等）に気付く。 ・掲示物や動画を見て自分の作業のやり方を振り返り、適切なやり方やポイントに気付く。

対話と思考（対話を通した協働的な問題解決のプロセス）

- ・**目標決め**：班全体で製品作りの目標や製品の生産計画等について話し合う。
生産する製品の種類やデザイン、数等について生徒が自分の意見を持つことができるように、市場調査の結果を教師と確認する。また、教師は「お客様が満足する製品は、どんな製品だと思いますか。」など生徒自身が考え、意見交換できるように発問をする。
「お客様に満足してもらうためには、色むらがないように染色しないといけないね。」
「市場調査で人気だったのは、コインケースだからコインケースを多めに作るのはいかがでしょうか。」

「刻印がたくさんあるデザインよりも、シンプルなデザインの方が人気みたい。シンプルなデザインの製品を多めに作ろう。」

- ・ **製品作り**：実態に応じて作業工程を役割分担し、役割に応じたグルーピングをして製品を作る。
作業中は、グループの友達や教師に相談・確認しながら作業に取り組んだり、自分の役割に責任を持って取り組んだりして協力して製品作りを行う。自分の作業が終わったら次の工程の友達に製品を渡す等、分業にすることで生徒同士の対話や協力を引き出す。また、作業の前後にグループミーティングを設定し、生徒同士で進捗状況を確認したり、作業のこつや気を付けるポイント等を共有し合ったりする時間を設ける。
「〇〇さん、染色が終わったので、刻印をお願いします。」
「染色で色むらが出てしまうけど、どうしたらむらにならないだろう。」
「円を描くように塗るとむらになりにくいよ。」

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・ **目標決め**：レザークラフト班としての目標や生産計画について、自分なりに考えたり伝えたりすることができる。
「私たちの班は、お客様が満足する製品を作るために規格通りの製品を作ろう。」
「コインケースが人気だから、コインケースは、他のよりも多めに〇個作ろう。」
- ・ **製品作り**：自分が担当する作業工程、工具の使い方等を正しく理解し、規格どおりの製品作りに取り組んでいる。また、作業のこつやポイントが分かって、作業を進めることができる。
「染色するときは、色むらが出ないように円を描くように何度も塗り重ねよう。」
「手縫いでは、糸が緩まないように1針縫うごとに力を入れてキュッと引っ張ろう。」
「ステッチがずれないように、線に沿って真っ直ぐに穴開けをしよう。」
- ・ **販売会后**
→「販売会で完売できた。」「お客様に満足してもらえた。」などと達成感を味わい、作業のやり方やポイントを守って規格通りの製品を作る大切さに気付くことができる。
→「もっとたくさんのお客様に買ってもらいたい。」「もっと満足度を上げるために、次は〇〇に気を付けて製品を作りたい。」などと新たな課題や目標を持つことができる。